

歴史に残る令和二年の記憶

菅茶山顕彰会会長 鶴野 謙二

平成から令和の新時代となり豊かな社会生活・世界平和への願いは、すべての人が共有する期待感だったと思います。しかし、毎日のテレビ・新聞に新型コロナウイルス禍の報道が続いております。

世界保健機関（WHO）は新型コロナウイルス感染症（COVID・19）を発信し、世界中に感染が拡大しております。累計では世界中の感染者数は九千万人を超え、死者も二百万人を超えています。感染の世界的大流行（パンデミック）はコロナ戦争とも言われています。

コロナ対策として、緊急事態宣言・新しい生活様式（3密を避ける）・不要・不急の外出自粛等により、東京五輪をはじめ、あらゆるスポーツ・社会活動が中止、延期、縮小となっています。また、経済活動も停滞しており、コロナ禍で世界中異変な社会状況が続いております。

菅茶山顕彰会の今年度の活動も殆ど中止の状況でしたが、松風館十勝碑林の整備活動は記録に残る取り組みです。

令和二年（2020）には、菅茶山顕彰会の先輩諸氏、顕彰会前会長高橋孝一様・特別顧問松井義典様・前理事武村充大様・前理事武田武美様・現理事三宅真一郎様、五名、異例なご逝去の訃報がありました。謹んで哀悼の意（誠）を捧げたいと思います。感慨一入であり人生の悲哀を覚えずにはおられません。

特に高橋孝一様には、菅茶山顕彰会三十三年間の歩みの中には、常に中心的存在感があり、また、地域の文化活動にも必ず顔があり、多くの地域貢献・社会貢献の足跡がありました。

菅茶山顕彰会は、菅茶山の遺芳・遺徳に学び茶山文化を後世に継承して行くことが顕彰活動の主旨であると言われております。顕彰会前会長高橋孝一様の切なる思いをしっかりと受け止め、引き継いで行きたいと思っております。会員一丸となって、心はより密にして、楽しく、参加・体験型の活動を創造して行きましょう。